

5.3 妖怪ワールドに「女房」参戦

NHK朝の連続テレビ小説に水木しげる夫人が綴った二人の半世紀「ゲゲゲの女房」の放送が決定。これを祝って5月3日、JR境港駅に告知看板が設置されました。ゴールデンウィーク真ただ中のこの日は、2年前から始まった妖怪スタンプラリーの完走証獲得者も10万人を突破。さらには、期間中の入込み客数が過去最高を記録するなど、おめでたい記録づくし。

快進撃を続ける水木しげるワールドは、来春、「女房パワー」を得て、全国制覇を目指します。



5.14 尼子・毛利で平和を祈る

5月14日、弓ヶ浜半島であった尼子軍と毛利軍の戦いに散った武士たちの霊を慰める「永祿塚祭」が栄町で営まれ、有志が両軍の武士にふんし、平和を祈りながら水木しげるロードを練り歩きました。これは、「地域の歴史を多くの人に知ってもらいたい」と地域住民・歴史愛好家らにより開かれたもの。犠牲者をまつる永祿塚前で行われた神事では、戦乱の世に思いを馳せながら、尼子軍と毛利軍の代表が玉ぐしを捧げ、固めの杯を交わして世の中の平和を祈りました。

5.19 秋には畑一面に綿雪が

5月19日から中野町にある約1ヘクタールの遊休農地に「伯州綿」の種をまきました。

この綿は、かつて弓ヶ浜半島一帯で盛んに栽培され、「弓浜絨」の主原料として使用されていました。

昨年度から復活を目指す取り組みを開始し、今年度は、雇用対策にあわせて栽培量を大幅に拡大しました。本格的な復活に向けて販路が開拓され、ふたたび市の特産品として定着し、畑一面に咲く綿の花が市の風物詩になる日が期待されます。



5.24 意外と簡単！？お魚料理

5月24日、保健相談センターで親子おさかな教室が開催されました。これは、親子で楽しみながら地元でとれるさかんに触れ、学び、食べることで食文化の継承や魚食の普及を図っていこうというもの。

最初は、魚の内臓に抵抗感を示し、おっかなびっくりの子どもたち。心配そうに見守り、手を出すタイミングを計る大人たち。でも、2匹・3匹とさばくにつれて包丁の動きも滑らかに。親子の触れ合いと美味しい料理で心とお腹が大満足のひと時でした。